
1. 学歴

- 2005年 3月 東京外国語大学外国語学部卒業
2007年 3月 東京大学大学院経済学研究科修士課程修了
2013年 6月 ワシントン大学セントルイス校博士課程修了、Ph.D. in Economics 取得

2. 職歴・研究歴

- 2013年 4月 - 2016年 3月 東京大学空間情報科学研究センター講師
2016年 4月 - 2019年 8月 東京理科大学経営学部講師
2019年 9月 - 一橋大学経済学研究科准教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済地理学, 経済学入門

(b) 大学院

産業地理学

B. ゼミナール

学部演習, 大学院演習

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部講義では, 都市・地域経済学の主要な論点を現実との接点に重点を置きながら解説する。特に, 都市・地域経済学はミクロ経済学の応用分野であることを鑑み, 理論的・実証的研究を幅広く概観しながら, これらの研究から示唆される政策的含意を日本及び海外の実情に照らして検討する。また, ネットワーク科学などの都市・地域経済学と密接に関連するトピックについても解説する。学部ゼミナールは, 3年次は, 講義で習得した知識を応用して, 実際に都市・地域に関わる経済現象や課題を分析する力を身に付けることに主眼を置く。4年次は, 卒業論文の指導を行う。

4. 主な研究テーマ

- (1) 都市・地域政策が経済主体の立地に与える影響とそれらを考慮した政策評価
- (2) 空間データを用いた社会経済ネットワークの分析
- (3) 進化ゲーム理論を用いた都市・地域経済モデルの均衡の安定性解析

5. 研究活動

A. 業績

(b) 論文(査読つき論文には*)

1. * "The Welfare Effects of Cordon Pricing and Area Pricing: Simulation with a Multi-regional General Equilibrium Model," *Journal of Transport Economics and Policy*, Vol.45, No.3, 2011, pp.481-504.
2. 「非効率な資本税がある場合の都市混雑政策と経済成長について」『日交研シリーズ A』, 532 巻, 2011 年, 53-71 頁。
3. * "Evolutionary Implementation of Optimal City Size Distributions," *Regional Science and Urban Economics*, Vol.43, No.2, 2013, pp.404-410.
4. * "Growth, Agglomeration, and Urban Congestion," *Journal of Economic Dynamics and Control*, Vol.37, No.6, 2013, pp.1168-1181.
5. * "The Emergence of Cooperation through Leadership," *International Journal of Game Theory*, Vol.44, No.1, 2015, pp.17-36.
6. * "Communities in an Inter-firm Network and their Geographical Perspectives," (Ritsu Sakuramachi, Naoya Fujiwara, Yuki Akiyama, Ryosuke Shibasaki との共著), *Proceedings of the 14th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management*, 2015.
7. * "Discrete-Space Agglomeration Model with Social Interactions: Multiplicity, Stability, and Continuous Limit of Equilibria," (Takashi Akamatsu, Yuki Takayama との共著), *Journal of Mathematical Economics*, Vol.69, 2017, pp.22-37.
8. * "Optimal Income Taxation with a Stationarity Constraint in a Dynamic Stochastic Economy," (Marcus Berliant との共著), *Journal of Public Economic Theory*, Vol.19, No.3, 2017, pp.739-747.
9. * "The size distribution of 'cities' delineated with a network theory-based method and mobile phone GPS data," (Naoya Fujiwara, Yuki Akiyama, Ryosuke Shibasaki, Ritsu Sakuramachi との共著), *International Journal of Economic Theory*, Vol.16, No.1, 2020, pp.38-50.
10. * "Equilibrium dynamics in a model of growth and spatial agglomeration," (Daisuke Oyama との共著), *Macroeconomic Dynamics*, First View, November 2021, pp. 1-26.
DOI: <https://doi.org/10.1017/S1365100521000377>
11. * "Urban spatial structures from human flow by Hodge-Kodaira decomposition," (Takaaki Aoki, Naoya Fujiwara との共著), *Scientific Reports*, 12, July 2022, 11258.

(d) その他

1. "City center identification as attractive places of people's collective movements," (Takaaki Aoki, Naoya Fujiwara との共著), November 2022. Available at arXiv: <https://arxiv.org/abs/2211.14496>
2. "Heterogeneous treatment effects of place-based policies: which cities should be targeted?" (Tadao Hoshino, Shinya Sugawara との共著), August 2022. Available at SSRN: <https://dx.doi.org/10.2139/ssrn.3729897>

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

1. "Heterogeneous treatment effects of a place-based policy: the role of production networks," (Tadao Hoshino, Shinya Sugawara との共著), 都市経済ワークショップ, 東京大学, 2018 年 7 月。

2. "Heterogeneous treatment effects of a place-based policy: the role of production networks," (Tadao Hoshino, Shinya Sugawara との共著), 応用地域学会研究発表大会, 南山大学, 2018 年 12 月。
3. "Heterogeneous treatment effects of a place-based policy: the role of production networks," (Tadao Hoshino, Shinya Sugawara との共著), Hitotsubashi Urban Economics Workshop, Hitotsubashi University, 2019 年 7 月。
4. *「企業間取引データを用いた地域活性化政策の政策評価」, ネットワーク科学セミナー2019, 統計数理研究所, 2019 年 8 月。
5. "Heterogeneous treatment effects of place-based policies: Which cities should be targeted?," 14th Meeting of the Urban Economics Association, The Federal Reserve Bank of Philadelphia, 2019 年 10 月。
6. "Heterogeneous effects of place-based policies and a practical treatment assignment rule," (Tadao Hoshino, Shinya Sugawara との共著), 10th Asian Seminar in Regional Science, University of Tsukuba, 2020 年 10 月。
7. "Urban spatial structures from human flow by Hodge-Kodaira decomposition," (Takaaki Aoki, Naoya Fujiwara との共著), 応用地域学会研究発表大会, オンライン, 2021 年 11 月 20 日。
8. "The Hodge-Kodaira decomposition of human flows," (Takaaki Aoki, Naoya Fujiwara との共著), 適応動学セミナー, 東北大学, 2022 年 9 月 5 日。
9. *「都市・地域経済学の展望:ネットワーク・構造推定・政策評価の観点から」, 応用地域学会研究発表大会, 山梨大学, 2022 年 12 月 17 日。

(b) 国内研究プロジェクト

1. 科学研究費若手研究(B)「確率的離散選択モデルにおける政策評価の理論的精緻化」(研究代表者), 2015 - 2018 年度。
2. 科学研究費基盤研究(C)「空間・時間・情報を通じた戦略相互作用の分析:基礎理論と空間経済学への応用」(研究分担者), 2016 - 2019 年度。
3. 科学研究費若手研究「数量的空間経済学の発展:複数均衡, ネットワーク, 政策評価」(研究代表者), 2018 - 2022 年度。
4. 科学研究費基盤研究(C)「局所相互作用ゲームの理論と空間経済学」(研究分担者), 2019 - 2022 年度。
5. 科学研究費挑戦的研究(萌芽)「産業連関分析とネットワーク科学の融合アプローチによる地域内経済循環構造の解明」(研究代表者), 2022 - 2024 年度。
6. 科学研究費基盤研究(B)「限定合理的個人を仮定した大規模社会システムの動的制度設計」(研究分担者), 2022 - 2025 年度。
7. 科学研究費基盤研究(B)「GPS データを用いた観光需要と観光外部性の研究」(研究分担者), 2021 - 2023 年度。
8. 科学研究費基盤研究(B)「人流ネットワークに特化した数理解析基盤の整備とその応用」(研究分担者), 2021 - 2023 年度。

C. 受賞

2021 年 11 月 坂下賞(応用地域学会)

2021 年 11 月 優秀共同研究発表賞(東京大学空間情報科学研究センター)

6. 学内行政

(b) 学内委員会

入学試験実施専門委員会(2020年4月 - 2022年3月)

ハラスメント委員会(2022年4月 - 2024年3月)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

2016年4月 - 東京大学空間情報科学研究センター 客員研究員

2019年9月 - 2020年3月 東京理科大学経営学部 非常勤講師

(b) 所属学会および学術活動

日本経済学会

応用地域学会

(c) 公開講座・開放講座

「オリンピックと地方創生」, 一橋大学公開講義—オリンピックの社会科学—, 一橋大学, 2020年11月22日。

(d) 高校生向けの出張講義、模擬講義

「都市・地域経済学とデータサイエンスで考える地方創生」, 埼玉県立春日部高等学校, 2022年10月22日。

9. 一般的言論活動

1. 「都市の経済政策を空間データなどを用いて分析」, 『飛翔』ゼミ・研究室探訪 Vol. 27, 長野県民新聞社, 2020年12月7日。
2. 「人流データで首都圏の変遷を可視化 東北大学, 香川大学など」(青木高明, 藤原直哉との共著), 大学ジャーナルオンライン, 2022年7月24日。